

心肺蘇生とAEDの手順

はじめに…

心肺蘇生とAEDの使い方を知ることは、いざという時に
家族や周りの人のいのちを救え、

また、傷病者の社会復帰の手助けになれるということ。

AEDは、本当に簡単で、誰にでも使えるようになっていますが、

さらに「知識」と「経験」をつけてもらえば、

いざという時の自信にもつながります。

AEDは、近年の心疾患による死亡者数の増加を受け、

空港や駅などの公共機関・サッカー場やショッピングモールなど

現在、たくさんの場所に普及しています。

みんなもAEDを通じて、人のいのちを救う活動に参加しましょう。



「人が倒れている」近づくその前に

- 周囲の安全を確認する(二次事故防止)
- 傷病者の状態を確認する(大出血の有無など)

傷病者の発生

勇気を出して、声をかけよう!

意識の確認

反応をみる



(反応がなければ)

協力者を呼ぶ

「119番」と
「AED」



(心停止の判断)

呼吸をみる



※呼吸の確認は、胸とお腹の動きを10秒以内で観察し、普段どおりの呼吸の有無を確認する
※途切れ途切れのしゃくりあげるような呼吸(死戦期呼吸)は、普段どおりの呼吸ではない。

CPR(心肺蘇生)

普段どおりの呼吸がなかったら直ちに胸骨圧迫から開始!

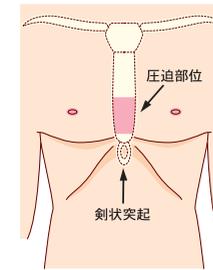
(CPR: Cardio Pulmonary Resuscitation)

「胸骨圧迫」30回と「人工呼吸」2回を繰り返す

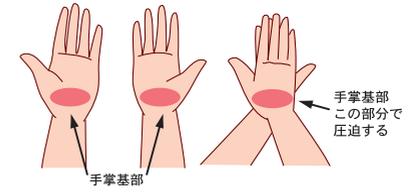
※人工呼吸ができないときは、胸骨圧迫だけを続ける。

胸骨圧迫

「強く(5cm以上)」、「速く(100回以上/分)」、「絶え間なく」、
「胸の真ん中」を「手掌基部」で垂直に押し上げる



※剣状突起は押さない。



※圧迫と圧迫の間は、胸が元のたかさに戻るまで十分に圧迫を解除する。

※人工呼吸は、①気道を確認し、②傷病者の鼻をつまみ、③胸が上がる程度息を吹き込む、④つまんだ指を離して吹き込んだ息を抜く。

AED(自動体外式除細動器)

まずは電源ON!

(AED:Automated External Defibrillator)

音声指示に従ってAEDを操作する

電源を入れる



※ふたを開けると電源が入るタイプもある。

パッドを貼る



※パッドは肌に密着させ、肌が濡れているとき等はふき取る。

※「心電図の解析」を行うとき、「電気ショック」を行うときは傷病者にはさわらない。

※「電気ショック」後や「電気ショックが不要」のときは、傷病者に反応がない限り心肺蘇生を継続する。

※救急隊などに引継ぐまで「電源」と「パッド」はそのままにする。

心電図の解析



電気ショック

